

学生の保育実習における感情体験についての縦断的調査Ⅱ

— 学生の語りの表出と変化を手がかりに —

小川圭子・鎌田陽世

I はじめに

保育施設は、子ども・子育て支援法の施行や児童福祉法の改正、保育所保育指針の改定が行われるなど、社会環境の変化にともなって子育て支援、障害児保育及び一時保育、異年齢保育、長時間保育など多様な保育が求められる。そうした社会環境のなかで全国保育士養成協議会（2018）では、半世紀を超える時間の中で保育士養成課程の中核をなす保育実習の目的について、「保育実習は、その習得した教科全体の知識、技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする」と示されている。つまり、保育所における保育士の職務は、人格形成の基礎を培う乳幼児期に心身の発達に直接関わるという重要な仕事であり、重い責任を負っている。したがって、その責任を果たすためには、乳幼児の心身の発達に関する諸理論と、それらを具体化していける実践的な知識や技術の習得が求められる。

保育所実習は実習生が保育所の現場で実際に子どもの保育ができるようになるために、学内で学んだ専門的な理論や知識を実際の場面で応用、統合し、子どもを直接援助する具体的な技術や方法を体験的に学習するものである。その目的は、実習生が実習施設の活動と直接関わり合いながら、保育の目的と機能を理解するとともに、保育士の職務と役割及びその実践的能力

を経験的に習得して、資格取得後（卒業後）、各種施設の現場で通用するように、保育士として必要な基盤を確立するところにある。

言うまでもなく実習は単なる体験学習ではなく、保育士養成の一過程であり、実習を終えたあともこの体験を基に、さらに学内の学びを通して自己の保育観、福祉観の形成を図り、保育士となるための準備を進めていく。

このように保育実習は学生が保育士資格を取得するための重要な位置づけがなされており、CiNiiでキーワード検索すると754件（全国保育士養成協議会、2018）が検出されている。しかしながら、養成校における保育実習教育に関する研究は、主に事前指導や事後指導等に関するものや、実習中の学生の学びに関するものが数多く、保育実習中の感情についての研究は見当たらない。

実習は社会化のプロセスとして大きな位置づけであると考え、実習中に生起する感情経験を解明することは、学びやレジリエンスについて考察する基礎的な知見を得ることにつながる（姫野ら、2017）。

そこで筆者らは、保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱに参加した学生に対し、縦断的にヒアリング調査を実施し、実習で印象に残った場面の中での、ネガティブ、あるいはポジティブな感情を抱いたエピソードを収集し、分類を行った。その結果、学生がポジティブな感情を抱いたエピソードとして最も多く語ったのは、子

学生の保育実習における感情体験についての縦断的調査Ⅱ

子どもとの日常的な関わりについてであり、具体的には「子どもが自分の名前を覚えてくれた」、「一緒に絵本を読んだ」、「似顔絵をプレゼントしてくれた」といった子どもとの関わりが、初めての保育実習に意欲的に取り組む大きな動機付けとなっていることが示された。また、実習経験を積むことによって「保育士の指導や態度」をネガティブに感ずるエピソード数が減少する一方、「実習日記の作成」に関するネガティブなエピソード数が増加したり、「特定の場面での子どもとの関わり」に関するポジティブなエピソード数が減少するなど、ネガティブあるいはポジティブな感情を喚起される事象が変化していく可能性が示された（鎌田・小川，2014）。

Ⅱ 調査Ⅰ —保育実習ⅠとⅡのヒアリング調査から—

1. 目的

「保育実習Ⅰ（保育所）」と「保育実習Ⅱ」の双方に参加した学生を対象に、ネガティブな感情およびポジティブな感情を抱いたエピソードについて聞き取り調査を行い、学生が保育実習中において抱く感情に、どのような変化が見られるのかを検討する。

2. 方法

(1) 調査対象：保育実習Ⅰ（保育所）（2016年2月上旬，2週間）と保育実習Ⅱ（2017年2月上旬，2週間）の双方に参加した，教育学部の学生19名。

(2) 調査期間：保育実習Ⅰ（保育所）は2016年3月，保育実習Ⅱは2017年3月の事後指導終了後に実施した。

(3) 調査手続き：半構造化面接により，1人につき約20分間のヒアリング調査を行った。まず

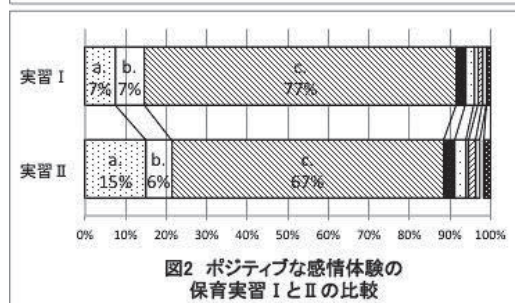
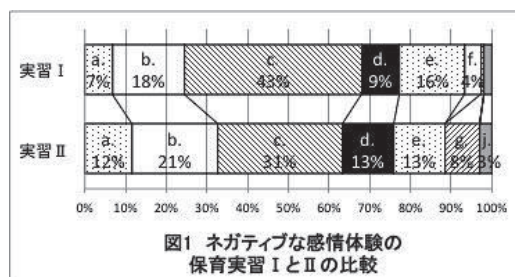
表1 保育実習ⅠとⅡにおける感情別にみた各カテゴリーごとのエピソード数

カテゴリー	ネガティブな感情		ポジティブな感情	
	実習Ⅰ	実習Ⅱ	実習Ⅰ	実習Ⅱ
a. 保育士の指導や態度	7 (7)	11 (12)	7 (7)	17 (15)
b. 子どもの発達・特性に応じた関わり	19 (18)	20 (21)	7 (7)	7 (6)
c. 特定の場面での子どもとの関わり	46 (43)	29 (31)	74 (77)	76 (67)
d. 実習生としての在り方	10 (9)	12 (13)	2 (2)	3 (3)
e. 保育実践(技術)	17 (16)	12 (13)	2 (2)	3 (3)
f. 実習日誌の記入・作成	4 (4)	0 (0)	1 (1)	1 (1)
g. 保育所の方針	1 (1)	8 (8)	1 (1)	2 (2)
h. 保護者との関わり	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)
i. 職員同士の関係	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
j. その他	2 (2)	3 (3)	1 (1)	2 (2)
合 計	106 (100)	95 (100)	96 (100)	113 (100)

単位: 件数(%)

「ネガティブな感情」として，実習中に「困った」，「不安・心配だった」，「戸惑った」と感じたエピソードは何だったかについて尋ねた。つぎに「ポジティブな感情」として，「楽しい」，「嬉しい」，「幸せ」だと感じたエピソードについて尋ねた。

この調査によって保育実習Ⅰ（保育所）では202件（1人平均約10.6件），保育実習Ⅱでは



208件（1人平均10.9件）のエピソードを得た。これらのエピソードを、前回の調査で得られた9つのカテゴリーを基に、2名の研究者によって評定・分類した（表1）。

（4）倫理的配慮：調査の目的、匿名性の遵守などについて口頭で説明し、同意を得て面接した。

3. 結果と考察

保育実習Ⅰ（保育所）とⅡを比較すると、全体的にネガティブな感情に結びつくエピソード数が減少し、ポジティブな感情に結びつくエピソード数が増加していた。また、ネガティブ・

ポジティブ双方の感情で、全エピソードに占める「特定の場面での子どもとのかかわり」の割合が10%以上減少していた（図1，図2）。多くの学生は、実習においてまずは子どもとの関わりに注目しがちであった。しかし、実習経験を重ねることによりネガティブ、あるいはポジティブな感情を喚起される事象の幅が、広がっているのではないかと推察された。

Ⅲ 調査Ⅱ —保育実習ⅠとⅡの質問紙調査から—

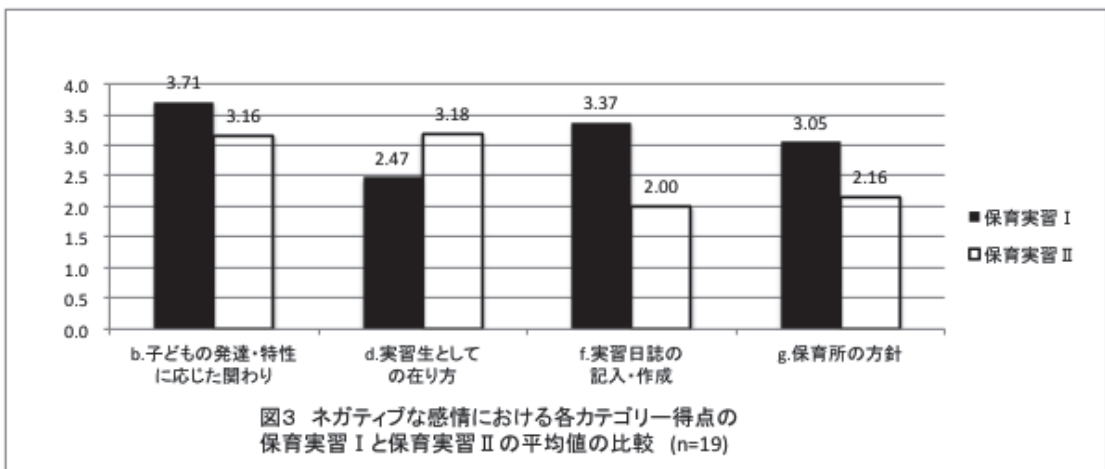
1. 目的

先の調査で得られたカテゴリーをもとに質問

表2 感情別に見た各カテゴリー得点の保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの平均値の比較

カテゴリー	ネガティブな感情					ポジティブな感情				
	保育実習Ⅰ		保育実習Ⅱ		t値	保育実習Ⅰ		保育実習Ⅱ		t値
	M	SD	M	SD		M	SD	M	SD	
a. 保育士の指導や態度	2.66	1.07	2.45	1.08	0.73	4.82	0.38	4.76	0.48	0.46
b. 子どもの発達・特性に応じた関わり	3.71	0.73	3.16	0.83	3.52 **	3.87	0.74	4.08	0.61	-0.95
c. 特定の場面での子どもとのかかわり	3.84	1.08	3.76	0.63	0.26	3.53	0.91	3.74	0.73	-0.77
d. 実習生としての在り方	2.47	0.72	3.18	0.99	-4.75 **	3.08	0.69	3.03	0.72	0.21
e. 保育実践(技術)	3.84	0.88	3.34	1.12	1.76	2.76	0.89	2.82	0.67	-0.28
f. 実習日誌の記入・作成	3.37	1.34	2.00	0.82	4.08 **	3.79	0.98	4.16	0.83	-1.33
g. 保育所の方針	3.05	1.18	2.16	1.17	2.26 *	3.68	1.00	3.79	0.92	-0.37
h. 保護者との関わり	2.79	1.03	2.58	0.90	0.72	3.74	0.99	3.47	0.96	0.89
i. 職員同士の関係	2.47	0.91	2.05	0.78	1.80	3.84	1.12	3.95	0.62	-0.38

* $p<.05$ ** $p<.01$



紙を作成し、実習経験を積み重ねていく中で、学生の感情体験にどのような変化が見られるかを、量的分析によって検討した。

2. 方法

(1) 調査の対象：保育実習Ⅰ（2016年2月）及び、保育実習Ⅱ（2017年2月）の双方に2週間ずつ参加した教育学部の学生19名。

(2) 調査期間：保育実習Ⅰは2016年3月、保育実習Ⅱは2017年3月に実施。

(3) 調査手続き：保育実習Ⅰでは、実習の事後報告会にて調査についての説明を行い、承諾を得ると共に質問紙を配布、回収した。保育実習Ⅱでは、質問紙を実習前に配布し、ヒアリング調査時に回収した。

(4) 質問紙：「保育所実習において学生が抱く感情についての調査研究Ⅰ」で得られた9つのカテゴリー（表2）をもとに14項目を作成し、それぞれの項目について、どの程度「困った」、「不安になった」、「戸惑った」というような気持ち（ネガティブな感情）になったかを5件法で尋ねた。また、同じ14項目を用いて、どの程度「うれしかった」、「楽しかった」、「幸せだ」というような気持ち（ポジティブな感情）になったかについても、同様に尋ねた。

3. 結果と考察

各カテゴリーの回答からカテゴリー得点を算出し、保育実習Ⅰと保育実習Ⅱでどのような変化が見られるかを検討するため、対応のあるt検定を行った。その結果、ポジティブな感情については有意な差は認められなかった。一方、ネガティブな感情については「b. 子どもの発達・特性に応じた関わり」、「f. 実習日誌の記入・作成」及び「g. 保育所の方針」の3カテゴリーにおいて得点が減少しており、「d. 実

習生としての在り方」のみ得点の増加が見られた。すなわち、保育実習経験は、特に、学生のネガティブな感情に影響を与えるのではないかという可能性が示された。

Ⅳ まとめ

保育実習は、大学教員、学生、保育所の職員の方々などさまざまな人間関係の中で展開される。そうした揺れ動いた感情を導きの糸として、何が起こっていたのかを考えながら、保育者としてのあり方を身につけ、学生は実習の経験を重ねて成長していく。今回の調査では、保育実習体験において学生がどのような事象にポジティブな感情やネガティブな感情を抱き、どのように変化していくかについて、横断的な検証を行った。

保育所の方針や施設長、保育士やその他職員のあり方、子どもたちの様子によっても、実習生の実習における感情体験に差異が生じるであろうことは、想像に難くない。今回の結果が、様々な実習機関においても同様な結果が得られるのか、保育所の取り組み等によって大きな差が生じるのかを、検証していく必要もあろう。

実習体験によって得られた知識と、実際に実習で抱く感情は必ずしも一致するわけではない。しかし、こうした実習における学生の感情体験と、学生の抱く子ども観の成長、あるいは実習の際のサポート体制との関連を検討することも、今後の課題と考える。

さらに、実習生と保育者、子どもとの感情がどのように関連し、職業的社会化と結びついていくのかを検討していくことも重要であろう。

謝 辞

本研究を行うにあたり、ご協力をいただきました学生の皆さんに心から感謝いたします。

文 献

- 姫野完治・加藤伸城・中谷洋暁・山田唯佳・有井優太・高野春樹・宇高佑哉・神脇結・林優太（2017）教育実習生の感情経験と構造—授業および授業外に経験し表出する感情に着目して—北海道大学教職課程年報第7号, 1-13.
- 藤塚岳子（2013）教育実習事前事後指導の手がかりを探る—学生の学びと課題を分析して—全国保育士養成協議会第52回研究大会研究発表論文集, 148-149.
- 一般社団法人全国保育士養成協議会（2018）.『保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2「協働」する保育士養成』, 中央法規出版株式会社.
- 一般社団法人全国保育士養成協議会（2018）.『平成29年度保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究報告書』, 子ども・子育て支援推進調査研究事業.
- 鎌田陽世・小川圭子（2014）保育所実習において学生が抱く感情についての調査研究Ⅰ—保育実習Ⅰを中心に—, 日本教育心理学会総会発表論文集, 56, 821.
- 鎌田陽世・小川圭子（2014）学生の保育実習における感情体験についての縦断的調査—ヒアリング調査の数量化による分析から, 中京大学教師教育論叢, 4, 189-195.
- 鎌田陽世・小川圭子（2017）保育所実習において学生が抱く感情についての調査研究Ⅳ—保育実習ⅠとⅡの質問紙調査から—, 日本教育心理学会総会発表論文集, 59, 313.
- 小松邦子・松木和子・菅谷周子・氏原葉子・井上陽子（2006）基礎看護学実習で学生がとらえたエピソード記録から分析した感情の縦断的実態, 日本看護学会論文集看護学教育, 37, 330-332.
- 西田みゆき・北島靖子（2003）小児看護実習における学生の困難感, 順天堂医療短期大学紀要, 14, 44-52.
- 小川圭子・鎌田陽世（2014）保育所実習において学生が抱く感情についての調査研究Ⅱ—保育実習ⅠとⅡの比較から—, 日本教育心理学会総会発表論文集, 56, 822.
- 小川圭子・鎌田陽世（2017）保育所実習において学生が抱く感情についての調査研究Ⅲ, 保育実習ⅠとⅡのヒアリング調査から, 日本教育心理学会総会発表論文集, 59, 312.
- 大江まゆみら（2016）保育者志望学生の実習累積による変容過程に関する一考察—エピソード形式の実習記録からみる学生の学びと育ち—保育士養成研究, 33, 1-10.
- 佐藤美枝子・佐藤サツ子・大高恵美（2008）老年看護学実習において学生の印象に残った場面での感情分析の一考察, 日本赤十字秋田短期大学紀要, 13, 63-68.
- 菅眞佐子（2002）子ども観の形成に関する研究—専門教育を受けることで子どもイメージはどう変化するか—, 滋賀大学教育学部紀要, 52, 85-94.
- 矢野 正（2013）本学学生の福祉施設実習の評価と課題, 湊川短期大学紀要, 48, 23-26.
- 本論文の一部は, 日本教育心理学会56回総会ならびに日本教育心理学会59回総会で発表した。

学生の保育実習における感情体験についての縦断的調査Ⅱ

資 料

(様式1)

「保育所実習における感情体験についての調査」

番号 _____ 氏名 _____

調査日：2016年3月●日

1 以下問1～問4に記入してください。

問1	きょうだい有無	兄 ・ 弟 ・ 姉 ・ 妹 ・ 無
問2	実習前に幼児と関わる機会	5：非常に 4：やや 3：どちらとも 2：あまり 1：全く
	5：非常に 4：やや の回答者のみ	(具体的に：ボランティア、ベビーシッター、親戚やきょうだいとの関わりなど)
問3	実習期間	2016年 2月 日～ 月 日 日間
問4	担当クラス	歳児 成績：

2 あなたは、今回の実習において、どの程度「困った」、「不安になった」、「戸惑った」というような気持ちになりましたか？それぞれの設問について、いずれかの番号に○をつけてください。

5 とてもそう思う 4 少しそう思う 3 どちらとも言えない 2 あまり思わない 1 全く思わない

問1	1)一緒に絵本を読んだり、給食を食べたり、遊んだりすること	5	4	3	2	1
	2)子どもに声をかけたり、コミュニケーションをとること	5	4	3	2	1
問2	1)発達や行動に特性を持つ子どもと関わること	5	4	3	2	1
	2)子どもの年齢や性格に応じて関わること	5	4	3	2	1
問3	1)部分実習や一日実習などの指導をすること	5	4	3	2	1
	2)保育の環境を整えること	5	4	3	2	1
問4	1)実習生としての体調維持や管理について	5	4	3	2	1
	2)実習生としての態度や姿勢について	5	4	3	2	1
問5	1)保育日誌を作成すること	5	4	3	2	1
	2)指導案を作成すること	5	4	3	2	1
問6	1)保育士の指導や態度に関すること	5	4	3	2	1
問7	1)保育所の指導・運営方針に関すること	5	4	3	2	1
問8	1)保護者との関係について	5	4	3	2	1
問9	1)保育所の職員同士の関係について	5	4	3	2	1
問10	1)その他	5	4	3	2	1
	(具体的に)					

3 あなたは、今回の実習において、どの程度「うれしかった」、「楽しかった」、「幸せだ」というような気持ちになりましたか？それぞれの設問について、いずれかの番号に○をつけてください。

5 とてもそう思う 4 少しそう思う 3 どちらとも言えない 2 あまり思わない 1 全く思わない

問1	1)一緒に絵本を読んだり、給食を食べたり、遊んだりすること	5	4	3	2	1
	2)子どもに声をかけたり、コミュニケーションをとること	5	4	3	2	1
問2	1)発達や行動に特性を持つ子どもと関わること	5	4	3	2	1
	2)子どもの年齢や性格に応じて関わること	5	4	3	2	1
問3	1)部分実習や一日実習などの指導をすること	5	4	3	2	1
	2)保育の環境を整えること	5	4	3	2	1
問4	1)実習生としての体調維持や管理について	5	4	3	2	1
	2)実習生としての態度や姿勢について	5	4	3	2	1
問5	1)保育日誌を作成すること	5	4	3	2	1
	2)指導案を作成すること	5	4	3	2	1
問6	1)保育士の指導や態度に関すること	5	4	3	2	1
問7	1)保育所の指導・運営方針に関すること	5	4	3	2	1
問8	1)保護者との関係について	5	4	3	2	1
問9	1)保育所の職員同士の関係について	5	4	3	2	1
問10	1)その他	5	4	3	2	1
	(具体的に)					

ーお 礼ー

質問紙にご協力をいただき、ありがとうございました。内容につきましては、個人情報の扱いに充分留意して、統計的に処理し、今後の保育所実習に生かして参ります。